

JAHISの各部会と委員会等のご紹介

2025年1月1日現在、JAHIS内に約110の部会と委員会、専門委員会、WG、及びTFが活発な活動を行っています。今回は、その組織の概要をご紹介します。

より詳細に活動内容をお知りになりたい場合には、事務局にお問い合わせください。

運営会議 | 議長 岩津 聖二 富士通Japan(株)

運営会議は、中期計画2027の運営方針に従い、「2030ビジョンで描くヘルスケアICTの実現に向けた推進【国民・ユーザー向け】」、「JAHIS参画価値の追求、健全な市場の維持・発展【会員向け】」、「JAHISブランドの向上、永続的な運営基盤の確立【運営基盤】」を推進している。

コンプライアンス委員会

委員長

岩津 聖二

富士通Japan(株)

業界団体であるJAHISが守るべき競争法（独占禁止法）を理解し、これを遵守するために会議、懇親会、統計情報の収集等のルールを定め、周知し、根付かせる活動を行う委員会である。また、各組織で競争法上に関する課題が発生した場合は、その対応について検討を行う。

情報システム検討委員会

委員長

真野 誠

JAHIS

JAHIS会員が活用する情報システム（会員管理、会議室予約、会議開催 等）の検討、立案、構築、運用支援を行い、会員活動がより活発になる様なシステムの構築を目指す委員会である。

戦略企画部 | 部長 山内 俊幸 富士通Japan(株)

戦略企画部は、部門をまたがる案件、運営会議からの指示事項を中心に具体的戦略立案及び全体調整を行う。また、JAHISの運営方針に基づき、「2030ビジョンの実現に向けた推進」、「JAHIS参画価値の追求、健全な市場の維持・発展」、「JAHISブランドの向上、永続的な運営基盤の確立」を推進する。

事業企画推進室

室長

小林 俊夫

JAHIS

データヘルス集中改革プラン、医療DX令和ビジョン2030、医療DX推進本部をはじめとする医療ICT政策等に関する省庁窓口、ロビー活動を担当し、得られた情報を会員に共有するとともに、行政の行う各種調査研究事業等にも協力している。

調査委員会

委員長

柴 健一郎

(株)NTTデータ

JAHIS創立以来、会員各社や部会等の協力を得ながら当業界の市場規模を示す売上高調査や、月刊新医療に協力する形で医療情報システム導入状況調査等を実施している。また当業界、会員各社に寄与する新たな調査の検討を継続的に実施している。なお委員会の性格上、会員各社に関連した数字を扱うケースが多いため、コンプライアンス宣言を十分に意識した対応を進めている。

企画委員会

委員長

西村 剛敏

ウィーメックス(株)

各部会や関係省庁・団体と連携して市場のさらなる健全化に向けた諸活動を実施している。また、保健医療福祉システムの将来ビジョン（JAHIS2030ビジョン）を策定し、会員・関係省庁・団体に示すと共に普及促進活動を実施している。

保健医療福祉情報基盤検討委員会

委員長

中光 敬

(株)NTTデータ

医療ICT政策、動向について海外および国内の両面から捉え、JAHIS活動の方向性や課題等について議論を行い、「保健医療福祉情報基盤における、海外状況と国内状況、及び今後のアクション」（通称：俯瞰表）として整理を実施している。また、整理した俯瞰表から、JAHISとして取り組むべき領域と具体的な取り組み内容について検討を行う。

<p>事業推進体制検討委員会 委員長 山内 俊幸 富士通Japan(株)</p>	<p>運営会議正副議長、事務局長、戦略企画部長、運営幹事、事業企画推進室正副委員長がメンバーで、JAHISの体制に関する検討全般を協議する委員会である。主な検討項目としては、公募での選出が規程されている役職の手続きや運営全体に関わる規程やルールの見直しなどを行っている。</p>
<p>多職種連携WG リーダー 光城 元博 富士フィルム(株)</p>	<p>わが国が直面する超少子高齢・人口減社会を乗り越えるための国策「地域共生社会」の推進には、在宅医や訪問看護師、ケアマネジャー、ボランティア、自治体などの多職種間の情報連携が重要である。当WGでは関係省庁や大学等と連携し、デジタル技術を活用した多職種連携における情報項目標準化などの活動を行っている。</p>
<p>次世代情報システム検討推進TF リーダー 山内 俊幸 富士通Japan(株)</p>	<p>2019年9月一般社団法人NexEHRASが設立され、JAHISのカウンターパートとして設置したタスクフォースである。シンポジウムや勉強会、セミナーなどの情報を展開したり、POC部会へ委員を派遣している。</p>
<p>ACTION1対応WG リーダー 小林 俊夫 JAHIS</p>	<p>全国医療情報プラットフォームにおける、オンライン資格確認、電子カルテ情報共有サービス、特定健診等データ収集、及び行政・自治体情報基盤にあたるPMH(Public Medical Hub)など、これらの実現に向け、行政との会議、仕様書等各種資料のレビュー、各種提言等を行っている。</p>
<p>ACTION2対応WG リーダー 新垣 淑仁 日本電気(株)</p>	<p>電子処方箋の普及促進と電子処方箋の更なる機能拡充について検討を行っている。また、厚生労働省医薬局と適宜、意見交換も実施している。</p>
<p>サイバーセキュリティ対策TF リーダー 法邑 昇 富士通Japan(株)</p>	<p>近年のサイバーセキュリティ事案の増加を受け、本TFはベンダーのセキュリティ意識啓発と課題解決の支援を目的として活動している。主にNISCからのセキュリティ関連の情報共有とJAHIS標準（MDS/SDSガイド）に関する問い合わせ回答の取りまとめ窓口として活動している。</p>
<p>診療報酬改定DX対応WG リーダー 小林 俊夫 JAHIS</p>	<p>診療報酬制度に関わる行政（厚生労働省、デジタル庁等）と連携しながら、診療報酬に係る医療機関側のコストを下げる為にプロセス全体を含めた改革の支援を行っていると共に、JAHIS会員としての意見、コメント等、行政に対する各種提言等を行っている。</p>
<p>絵本製作TF リーダー 木戸 須美子 キャノンメディカルシステムズ(株)</p>	<p>JAHIS創立30周年記念事業として、JAHISが掲げる『データ循環型社会』の理念を知っていただくための絵本を作成し医療機関様にお届けするプロジェクトを推進している。</p>

総務会 | 会長 下山 赤城 日本アイ・ビー・エム(株)

総務会の今年度の活動計画と概要は、以下のとおりである。

- 1) 会員サービスの向上
 - (1) 利便性を高めた会員サイトの運営と各種手続きの簡素化の推進
 - (2) HPや会誌に掲載するコンテンツ作成とタイムリーな情報発信
- 2) 健全な組織運営
 - (1) 新規会員獲得につながる情報発信の強化 (2) 総務会が主催・運営をおこなうイベントの確実な実施
 - (3) 会員メンバーの委員会等の活動の活性化 (4) 業務プロセスの見直しによる事務作業の効率化と経費削減
 - (5) 事務局業務のプロセス改革 (6) 定款、規則・規程の適宜見直し (7) 年会費の適切な徴収管理

HP改善TF

リーダー

徳永 勝哉

日本事務器(株)

JAHISホームページを情報発信の基盤とし、視認性、情報へのアクセスを改善することによって、会員満足度の向上、新規会員の獲得を目的としている。アクセス数、デバイス別、アクセス地域、リファラー、検索キーワード、各ページの閲覧件数、ヒートマップ等を毎月分析している。

会員意識調査TF

リーダー

柴 健一郎

(株)NTTデータ

全会員へのアンケートを実施し、得られた情報を分析して、今後の部会活動の質的向上を支援するためのタスクフォースである。部会を超えたメンバーを募集しています。

女性活躍TF

リーダー

木戸 須美子

キャノンメディカルシステムズ(株)

会員の多様性向上の観点から、JAHIS活動への女性参画をより一層促進するためのタスクフォースである。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

標準化推進部会 | 部会長 湯澤 史佳 キャノンメディカルシステムズ(株)

標準化推進部会は、保健、医療、福祉分野におけるDXを実現する情報の利活用基盤に欠かせない標準化の推進活動を行う。主な事業として、JAHIS標準類の制定、標準化に係わる国内外の関係機関との連携、患者安全や保健医療福祉情報システムの品質に係わる課題の検討、および関連標準類の普及推進活動等を行う。

国内標準化委員会

委員長

田中 利夫

キャノンメディカルシステムズ(株)

各部会の委員会と連携し、JAHIS標準類の審議、標準化に関わる規程類やガイドラインの整備、標準化マップに基づくフォローアップ、HELICS指針審査に関わるJAHIS見解の取りまとめ等を行う。また、標準化に関わる人材の育成などにも取り組む。

国際標準化委員会

委員長

岡田 真一

日本電気(株)

JAHISの標準化活動の国際対応窓口として、海外の標準化団体との調整、国際標準の国内への展開、日本の標準の海外への展開等を担う。ISO TC215、DICOM、HL7、IHE、HIMSS、RSNA等に国際エキスパートを派遣し、国際規格の開発や海外動向調査、会員への情報提供を行う。

普及推進委員会

委員長

田中 宏明

富士通Japan(株)

JAHIS各会員の営業担当者が医療情報の標準化に対する取り組みを理解し積極的に提案できるように、標準化関連用語やシステムの関連性を俯瞰したオーバービューチャートの発行や若手営業向け基礎セミナーの開催及び標準類の普及度調査などを行う。

安全性・品質企画委員会

委員長

岡田 真一

日本電気(株)

ヘルスソフトウェアやヘルスITシステム（医療機器を含む）の医療安全に関する国際標準規格の策定や動向把握を行う。国際動向を踏まえて、JAHIS内外の関連団体と連携をとり、国内規制や管理方法に対して提言活動を行う。ISO TC215（医療情報）JWG7（Safety）のカウンターパートも担う。

医事コンピュータ部会 | 部会長 **川口 恭弘** (ウィーメックス株式会社)

「医療DX令和ビジョン2030」等で示された各施策等の実現に向けて、医事コンピュータの分野において標準化の推進、技術基盤の充実等を行い、ICTによる医療・介護の構造改革の支援を目指す。
 具体的には国のICT戦略の中で、ICT活用の目的を明確にしながらい関係機関と連携を取り課題解決への取り組み、医療保険・介護保険制度改正や診療報酬・介護報酬改定等のスムーズな対応、成熟した医事コンピュータビジネスの活性化を図るため、会員への情報発信と会員サービスの向上を目指している。

医科システム委員会

委員長

清水 力

(株)NTTデータ

診療報酬改定の対応に向けて、関係機関と協力して課題を検討し会員への情報共有等を行う。
 具体的には厚生労働省・社会保険診療報酬支払基金本部・国民健康保険中央会をはじめとする関係機関・団体と各種課題を共有しタイムリーにフォローアップを実施している。

医科改正分科会 リーダ **西口 妙子** (日本電気株式会社)

中央社会保険医療協議会、社会保障審議会等での議論の動向を中心に情報収集の上、各論点の咀嚼・疑義の取りまとめ・関係機関への課題提起・委員会へ展開する論点の整理を行っている。

医科標準化分科会 リーダ **清水 力** (株)NTTデータ

医療DXの工程表に基づく各種施策を情報収集の上、関連する部会と論点を共有し委員会へ展開している。特に「オンライン資格確認」・「電子処方箋」・「院外処方箋2次元シンボル」・「電子版お薬手帳」等を適宜議論し、標準化推進のための課題を整理や医事コンピュータ部会内・外で横断的対応を必要とする事案について臨機応変に対応している。

電子点数表分科会 リーダ **石川 幸司** (富士通Japan株式会社)

マスタ委員会と協力し公表情報の展開及び課題の共有を行う。特に診療報酬改定DXに伴う電子点数表の改善に向けて取り組みを強化している。

オンライン資格確認等WG リーダ **清水 力** (株)NTTデータ

オンライン資格確認の課題及び問題点の整理、今後公表される技術情報、訪問看護への対応等を咀嚼し、関係機関より密な情報収集を行い、JAHIS内関係者との情報の共有を推進している。

歯科システム委員会

委員長

佐藤 孝昭

(株)ノーザ

厚生労働省・日本歯科医師会・社会保険診療報酬支払基金本部・国民健康保険中央会をはじめ、各関係機関との連携を進め、業界の意見要望を伝えると共に協力体制の構築に努めている。特に「診療報酬改定DX」・「オンライン資格確認の利用用途拡大」・「オンライン請求の推進」については関係機関からの迅速な提供収集に努め会員へ周知展開を行っている。

歯科電子レセ分科会 リーダ **渡辺 浩章** (株)ミック

オンライン請求の推進・電子処方箋の利用推進・医療扶助・訪問診療などオンライン資格確認を利用した新たなサービスの拡大に関して委員会や専用MLを活用し情報提供を行う。

版下販売分科会 リーダ **森野 國男** (株)アキラックス

年4回実施される歯科用貴金属価格随時改定と診療報酬改定年度に更新される、新様式レセプト用紙の版下を作成し会員各社及び全国の歯科医師会等の団体への販売活動を実施している。

歯科改正分科会 リーダ **小森 一秀** (株)モリタ

診療報酬改定及び診療報酬改定DXの取り組みに合わせた基本マスタや記録条件仕様の変更について、関係機関や他の委員会との連携をはかり各種情報の提供を行っている。

歯科標準化分科会 リーダ **佐藤 孝** (株)ノーザ

MEDIS-DCの「歯科分野の標準化委員会」と厚生労働省委託事業「歯科情報の新たな利活用推進事業」への委員派遣している。
 委員派遣により得られた歯科に関する標準化等の最新情報について委員会経由での情報提供を行っている。

調剤システム委員会

委員長

宮島 毅

三菱電機ITソリューションズ(株)

厚生労働省・日本薬剤師会・社会保険診療報酬支払基金本部・国民健康保険中央会と関係を密にとり、「診療報酬改定DX」・「オンライン資格確認の利用用途拡大」・「電子処方箋の追加機能対応」など協力出来るよう、関係機関との連携を行っている。

また、日本薬剤師会との連携では各種委員会への委員派遣及び医療DXの推進に関する電子薬歴システムの標準規格対応について検討を進め会員へのタイムリーな情報提供を行う。

調剤改正分科会 リーダ 佐藤 夏苗 (株)EMテクノロジー研究所

2024年度診療報酬改定は6月に施行時期がずれる事もあり、関係機関への疑義照会等に関する対応等これまで以上に関係機関との連携を図り、情報収集を行っていく。

調剤標準化分科会 リーダ 守屋 和昭 三菱電機ITソリューションズ(株)

策定した各技術文書「院外処方箋2次元シンボル記録条件規約」、「電子版お薬手帳データフォーマット仕様書」「電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書」について行政の動向をフォローし、必要に応じ改版作業検討を行っていく。

また、医療DXの推進に関する電子薬歴システムの標準規格対応に向け、日本薬剤師会と連携を取り、検討を進めていく。

介護システム委員会

委員長

畠山 仁

富士通Japan(株)

科学的介護（LIFE、介護ケアプランデータ連携など）の更なる推進、及び2025年度の介護保険制度、介護報酬・診療報酬改定等の動向に関して、厚生労働省、国民健康保険中央会、関係会社等の関係機関と連携、協力を図りながら、タイムリーな情報の入手や、インタフェース検討、疑義照会、テスト作業の準備などを行っている。

医療保険訪問看護の診療報酬請求の電子化及びオンライン資格確認のさらなる推進に向けた厚生労働省、社会保険診療報酬支払基金本部等の関係機関の調査事業、ヒアリングなど関係委員会と連携し活動をしている。

介護改正分科会 リーダ 畠山 仁 富士通Japan(株)

委員会の配下の実働部隊としての役割を担っており、関係機関からの調査や依頼事項の対応、テストパターンの作成や実施など、参画メンバー内で分担して対応することができることを条件としてメンバーを募集し活動している。

医療訪問看護報酬改定対応WG リーダ 高橋 和彦 (株)日立システムズ

訪問看護における診療報酬改定対応・オンライン資格確認・オンライン請求（診療報酬）などに特化した活動を行うWGとして位置づけ、関係機関への意見具申、改正・改定情報のWGメンバーへの周知及び疑義照会対応を中心に活動している。

介護ケアプラン連携WG リーダ 畠山 仁 富士通Japan(株)

ケアプラン連携仕様の検討、国民健康保険中央会が提供するケアプラン連携システムとの連携検討などに特化した活動を行うWGとして位置づけ、関係機関への意見具申、連携仕様やシステム連携情報のWGメンバーへの周知及び疑義照会対応を中心とした活動をしている。

マスタ委員会

委員長

二階堂 誠

キャノンメディカルシステムズ(株)

各種基本マスターの課題整理・検討及びJAHIS医薬品マスタ（変換テーブル含む）や保険者番号辞書のJAHIS会員への販売・メンテナンスデータの提供を実施している。

社会保険診療報酬支払基金本部、国民健康保険中央会との定例会にて基本マスター全般及び電子点数表に対する課題の整理と提言を行っている。

診療報酬改定DXに伴う共通算定マスターの整備・改善に向け関係機関と協議し提言を行う。

電子点数表では医科システム委員会、歯科システム委員会と協力して課題・注意点を整理し情報提供を行う。

電子レセプト委員会

委員長

西口 妙子

日本電気(株)

診療報酬改定・労災レセプトの電子化推進・電子レセプトのオンライン化および電子レセプト情報の活用等の検討、訪問看護レセプトの電子化への対応について活動している。

記載要領電子化WG リーダ 柴田 学 NECソリューションイノベータ(株)

医療保険業務研究協会・受託事業（調査研究事業）について電子レセプトの記録、診療報酬請求業務の観点から調査研究事業に参画し、課題整理・提案を行う。

医療システム部会 | 部会長 **福間 衡治** 日本電気(株)

医療システム部会は、電子カルテをはじめとした医療情報システムの標準化やモデル化、それら各システム共通のセキュリティ、相互運用性について検討を行っております。また、JAHIS標準類の制定・普及促進、HL7、ISO/TC215などの国際標準化活動に関する情報収集や提案を、標準化推進部会と共に推進しております。医療システム部会に所属している、委員会は以下のとおりである。

- (1) 電子カルテ委員会 (2) 部門システム委員会 (3) セキュリティ委員会 (4) 相互運用性委員会

SS-MIX2仕様策定TF

リーダー

木村 雅彦

日本アイ・ピー・エム(株)

厚労省標準規格であるSS-MIX2のメンテナンスを行うための関係団体からなる合同WGに対するJAHIS側の対応組織である。

この合同WGには、JAHISの、SS-MIX2を管理している日本医療情報学会の標準策定・維持管理部会、SS-MIX普及推進コンソーシアム、日本HL7協会等の団体が参加している。

電子カルテ委員会

委員長

岡田 靖士

日本電気(株)

電子カルテを中心としたシステムに関する情報共有、議論などを行っている。JAHIS標準、技術文書の作成を行い各ベンダの実装の一助とすると共に各省庁、関連団体との検討会に出席しベンダの立場から意見具申することで「データ循環型社会」の実現および医療、医療システム業界の発展に向けて活動を推進している。

ePath実装ガイド策定WG リーダー **根来 亮介** (株)ソフトウェアサービス

JAMI標準の「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」にもとづきベンダがePathに対応したシステム開発を行うときに留意する点や例などを記載した実装ガイドを作成している。仕様書と併せて参照していただくことで、理解をより深め機能実装を推進することでePathの普及に貢献している。

看護業務支援専門委員会 専門委員長 **木戸 須美子** キャノンメディカルシステムズ(株)

看護業務の支援を目的としたシステムを対象に、標準化活動や各種既存製品の情報共有、勉強会を開催し、システムにおける連携性強化、開発・保守効率向上のための課題を洗い出すと共に、看護業務の効率化、質の確保に寄与する対策を検討している。

また、各種団体（MEDIS、JAMIなど）と協力し、活動を行っている。

看護情報WG リーダー **汐崎 弘子** NECソリューションイノベータ(株)

看護情報について、システム間移行や施設間連携を目的として、データの標準化検討を行っている。「JAHIS看護データセット適用ガイド 看護行為編」(2021年度Ver1.0、2024年度Ver.1.1)の強化に向けた検討や、看護業務支援専門委員会と連携した実作業等を行っている。また、MEDIS-DC看護実践用語標準マスタに対して、改善提言を行いマスタ開発に協力している。

患者安全ガイド専門委員会 専門委員長 **木村 潤** 富士通Japan(株)

医療情報システムとしてリスクの考慮が必要な業務について、その機能面、運用面での要点について議論・検討を行っている。今までに「患者安全ガイドライン〈個別編〉」(技術文書)として、注射編、内服外用編、輸血編、病理編を策定している。

患者安全ガイド 輸血編WG リーダー **天満 一宏** オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス(株)

リスクの考慮が必要である輸血業務に特化した技術文書「JAHIS 医療情報システムの患者安全ガイド(輸血編)」の改訂・維持を目的として活動している。また、一般社団法人日本輸血・細胞治療学会 安全委員会・病院情報システムタスクフォースと連携し(輸血編)改訂の意見を拝聴およびJAHIS窓口としての役割も担っている。

部門システム委員会

委員長

福重 二三男

(株)日立ハイテク

標準類の制定や標準化の普及促進の為、以下の活動を行っている。・臨床検査における標準化・普及促進・内視鏡検査における標準化・普及促進・病理/臨床細胞における標準化・普及促進・放射線治療、検査レポートにおける標準化・普及促進・DICOM領域における国際投票

放射線治療WG リーダ 今井 高文 富士フィルム医療ソリューションズ(株)

放射線治療に関連した標準文書（「放射線治療サマリー 構造化記述規約」「放射線治療データ交換規約」）の普及活動や情報共有を行っている。また、各種団体（日本放射線腫瘍学会など）と連携し、JAHIS窓口としての役割を担っている。

検査レポート検討WG リーダ 越後 洋一 日本光電工業(株)

検査レポートに関連した標準文書（「心臓カテーテル検査レポート構造化記述規約」「診療文書構造化記述規約共通編」）の普及促進や情報共有を行っている。「診療文書構造化記述規約共通編の維持改良」と「今後の個別編開発支援（共通ルールの確認、追加）」の2つを目的として活動している。

DICOM WG リーダ 村田 公生 富士フィルム(株)

国際投票案件の検討・投票、DICOM国際会議（DSC：総会、WG13：Visible Light、WG26：Pathology）への定期参加、WG13及びWG26における提案事項の検討推進を行っている。また、DICOM関連情報のJAHIS会員へ提供、およびDICOMへの反映に取り組んでいる。

臨床検査システム専門委員会 専門委員長 磯部 典隆 富士通Japan(株)

臨床検査に関連した標準化推進、各種勉強会による会員各社への情報提供を行っている。加えて、臨床検査項目分類コード（JLAC）、検査データ共用化、など関連する学会・団体等との連携やJAHIS窓口としての役割を担い、IHE-J連携、International PaLMスポンサー活動も実施している。

臨床検査データ交換規約改定WG リーダ 千葉 信行 (株)エイアンドティー

臨床検査に関連した標準文書「臨床検査データ交換規約」の改訂・維持を目的として活動している。「データ交換規約 共通編」との整合性確保など相互運用性委員会とも連携して活動している。

外注検査データ交換ガイド作成WG リーダ 川田 剛 (株)日立ハイテク

臨床検査に関連した標準文書「外注検査データ交換ガイド」の改訂・維持を目的として活動している。

内視鏡部門システム専門委員会 専門委員長 龍田 岳一 富士フィルム(株)

内視鏡検査に関連した標準文書（「データ交換規約」「レポート構造化記述規約」「DICOM画像データ規約」）の改訂、維持、普及活動および情報共有を行っている。また、各種団体（日本消化器内視鏡学会）へのJAHIS窓口としての役割、IHE-International内視鏡スポンサーとしての役割を担っている。

病理・臨床細胞部門システム専門委員会 専門委員長 近藤 恵美 シスメックスCNA(株)

病理・臨床細胞領域に関連した標準文書（「データ交換規約」「レポート構造化記述規約」「DICOM画像データ規約」）の改訂、維持、普及活動および情報共有を行っている。また、関連学会（日本病理学会、日本臨床細胞学会）との連携やJAHIS窓口としての役割を担っているほか、IHE-J連携、IHE International PaLMスポンサー活動も実施している。

物流システム専門委員会 専門委員長 岡本 重敏 富士通Japan(株)

ヘルスケア分野における物流業務の効率化、標準化の推進に取り組んでいる。現在は、「HIS向け医療材料マスタの提供ガイド」を策定し、普及、および、ITを活用した標準化などの情報収集を実施している。

セキュリティ委員会

委員長

茗原 秀幸

三菱電機(株)

ヘルスケア分野における情報セキュリティに対して会員各社に貢献するために以下の活動を行う。

- ・セキュリティ関連のJAHIS標準類に対する必要に応じた改定
- ・JAHIS標準類のISO化ならびにISOのJAHIS標準への組み込み
- ・クラウド化、マルチプラットフォーム化への対応
- ・JAHIS標準類の啓発活動の実施
- ・国のセキュリティ関連施策検討に対する協力

電子保存WG リーダ 近藤 誠 日本電気(株)

診療録等の電子保存を促進するため、セキュリティ要件のシステム実装についてベンダ向けの指針を検討するWGである。厚労省の安全管理ガイドラインの要件を整理し、より具体的で実装寄りのガイドラインの作成と普及に取り組んでいる。

監査証跡WG リーダ 西田 慎一郎 (株)島津製作所

情報システムの適切な運用の証拠となる監査証跡の標準的な出力イベントとメッセージ形式を規定した「ヘルスケア分野における監査証跡のメッセージ標準規約」を策定し、普及活動としてメッセージサンプルを公開している。

HPKI電子署名規格作成WG リーダ 有馬 一閣 (株)NTTデータ

HPKIで電子署名を行った医療文書等に対して、相互運用性と署名検証の継続性を確保する必要がある、そのための標準類について、厚労省の動きや国際規格との整合性をとりながら策定を行うと共に、普及啓発に取り組んでいる。

JAHIS-JIRA合同リモートサービス セキュリティ作成WG リーダ 松本 義和 サイバートラスト(株)

医療機関に対する遠隔保守（リモートサービス）のあり方と、情報セキュリティマネジメントと個人情報保護の視点からリモートサービスの適切なリスクアセスメント手法と実施すべきセキュリティ対策を研究している。

セキュアトークンWG リーダ 谷内田 益義 (株)リコー

個人等の識別・認証に使われる情報（クレデンシャル）を、ICカード等の安全な媒体であるセキュアトークンに格納して活用するための標準類を策定することによって、安全な医療情報の利用環境の実現と普及を目指して活動している。

シングルサインオンWG リーダ 宮川 力 (株)ファインデックス

医療施設内外で利用される複数のシステムにおけるシングルサインオン（SSO）の実現を目指し、セキュリティ要件、システム連携、運用上の課題などを含む要求事項と、それらに伴うリスクアセスメントについて検討およびガイドラインの策定を行っている。

JAHIS-JIRA合同開示説明書WG リーダ 武者 義則 ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)

製造業者/サービス事業者が、医療情報システム/サービスの厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」への対応状況を自ら説明するためのフォーマットを規定している。

教育事業WG リーダ 村田 公生 富士フィルム(株)

セキュリティに関連する教育セミナーや標準化セミナーのコンテンツ制作、講義を実施するグループで、セキュリティ委員会において指名されたメンバーにより構成されている。

相互運用性委員会

委員長

木村 雅彦

日本アイ・ピー・エム(株)

医療情報システムの相互運用性を推進するため、HL7 V2をベースとしたデータ交換規約の制定や電子カルテシステム間のデータ互換性を実システムに実装して検証する実証実験などの活動を行っている。また、医療情報の標準化を推進するため、外部の標準化団体や日本病院薬剤師会などと連携する活動を行っている。

メッセージ交換専門委員会 専門委員長 **中田 英男** 日本電気(株)

HL7 V2を使用して電子カルテシステム・各種部門システム間の標準的なデータ交換を行うための標準規約「データ交換規約」の制定やそれらの共通的な課題についての検討、医療情報の標準化に関する情報共有や意見交換を行っている。

HIS-薬剤部門メッセージ交換標準化WG リーダ **窪田 成重** 富士通Japan(株)

電子カルテシステム・薬剤部門システム間のデータ交換を標準化する「処方データ交換規約」の制定を行っている。

HIS-RISメッセージ交換標準化WG リーダ **塩川 康成** キヤノンメディカルシステムズ(株)

電子カルテシステム・放射線部門システム間のデータ交換を標準化する「放射線データ交換規約」の制定、また、同内視鏡部門システム間のデータ交換を標準化する「内視鏡データ交換規約」の制定を行っている。

病名情報メッセージ交換標準化WG リーダ **木村 雅彦** 日本アイ・ピー・エム(株)

病名情報に関するシステム間のデータ交換を標準化する「病名情報データ交換規約」の制定を行っている。

生理検査メッセージ交換標準化WG リーダ **村松 和彦** 日本光電工業(株)

電子カルテシステム・生理検査部門システム間のデータ交換を標準化する「生理検査データ交換規約」の制定を行っている。

注射処置標準化WG リーダ **西岡 太郎** 日本電気(株)

注射情報に関するシステム間のデータ交換を標準化する「注射データ交換規約」の制定を行っている。

データ交換規約共通編作成WG リーダ **中田 英男** 日本電気(株)

各データ交換規約（個別編）の共通仕様を取りまとめた「データ交換規約（共通編）」の制定を行っている。

IHE WG リーダ **塩川 康成** キヤノンメディカルシステムズ(株)

JAHIS がIHE Internationalに加盟したことを受け、IHEに関する投票案件の検討やIHEに関する情報共有と意見交換、IHEやRSNAなどに関する海外の国際会議やイベントの視察を行っている。

次世代データ交換技術WG リーダ **宮川 力** (株)ファインデックス

HL7 FHIRをはじめとする次世代のデータ交換技術について、部会内での情報共有や意見交換、スキルの底上げなどの活動を行うことを目的に2023年3月に新設されました。今後、HL7 FHIRなどに関する勉強会なども企画する予定である。

データ互換性専門委員会 専門委員長 **窪田 成重** 富士通Japan(株)

経産省の「医療情報システムにおける相互運用性の実証事業」の成果を引き継ぎ、電子カルテシステム間のデータ互換性を実システムに実装して検証する実証実験やそのための仕様である技術文書「基本データセット適用ガイドライン」の制定を行っている。

保健福祉システム部会 | 部会長 齋藤 貴洋 (株)NTTデータ

当部会では、行政他関連組織の背景・動向の行政動向を鑑み、政策進展の流れを捕らえて方向性を見極め対応している。健康・医療・介護分野においてはPHRの実現方法、電子カルテ標準化・デジタル庁の動向についても注視して活動している。標準化活動、行政他関連組織へ提言と協調にて会員のビジネス創出を支援している。

PHR検討タスクフォース

リーダー

金本 昭彦

B2NEXT(株)

鹿妻 洋之

Bオムロンヘルスケア(株)

医療保険者や自治体が実施する各種健(検)診情報やライフログといった健康作りを支援するシステムのデータの標準化に関する相談や、公的データとしてマイナポータルからのデータ取得に関して、厚生労働省やこども家庭庁、デジタル庁、国保中央会等0からの相談を受け、各部会、各委員会、WGと連携して対応している。

地域医療システム委員会

委員長

柳原 毅志

富士通Japan(株)

地域の各医療機関のデータ連携を実現する地域医療ネットワークシステムに関する情報共有、標準化を所管している委員会であり、4WG、1TFにてこれらを推進している。委員会としては教育事業(地域医療連携担当)や地域医療セミナーの開催など関連する標準化の普及推進もを行っている。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

医療介護連携WG リーダー 光城 元博 富士フイルム(株)

わが国が直面する超少子高齢・人口減社会を乗り越えるための国策「地域包括ケアシステム」「地域共生社会」の推進には、医療と介護の情報連携が重要である。当WGは「入退院時における在宅医療介護連携の標準化推進」「関係省庁との意見交換や先進事例の調査研究」「WG活動の情報発信」をテーマに活動している。メルマガを毎週配信しています。

地域医療連携IHE-ITI検討WG リーダー 足立 重平 日本電気(株)

地域医療ネットワークシステムにおける標準化技術であるIHE-ITIを中心に、実際の連携事例をもとに仕様を詳細化し、「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編」の策定等を実施。標準化技術の普及に向けた活動を実施している。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

地域医療連携画像検討WG リーダー 山口 剛史 GEヘルスケア・ジャパン(株)

地域医療ネットワークシステムにおける画像連携を中心にIHE-ITI検討WGと共に実際の連携事例をもとに仕様を詳細化し、「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編」の策定等を実施。標準化技術の普及に向けた活動を実施している。

地域医療連携診療文書標準化WG リーダー 矢原 潤一 日本電気(株)

地域医療ネットワークシステムにおける連携において、SS-MIXでは定義されていない医師の記録や看護記録などを連携できるようにすべく、「JAHIS地域医療連携における経過記録構造化記述規約」の策定等を実施。標準化技術の普及に向けた活動を実施している。

地域医療連携評価指標検討TF リーダー 中村 道範 (株)両備システムズ

全国の異なるベンダーの地域医療ネットワークの利用状況などを標準化するために、「JAHIS地域医療連携の評価指標に関するガイド」を策定し評価の標準化に向けた活動をしている。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

健康支援システム委員会

委員長

井上 裕之

(株)NTTデータ

保険者や自治体が実施する保健事業等やPHR、ライフログといった健康作りを支援するシステムや市場に関する情報を所管している。特定健診やPHRについては、国の委員会にも参画中。外部講師を招聘しての勉強会や、関連セミナー情報の提供と幅広に会員への情報共有を実施している。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

健康情報技術 WG リーダ 井上 裕之 (株)NTTデータ

主に、健診機関から個人への結果提供を想定し、特定健診等の結果報告仕様を基本に、それを拡張する形で様々な健診・検診に対応出来る様式についての検討を行いJAHIS標準として公開している。定められた様式については日本医師会等とも連携し普及活動を実施中。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

JAHIS-日本HL7協会 健康診断結果報告書規格 WG リーダ 井上 裕之 (株)NTTデータ

健康情報技術 WGと日本HL7協会のリエゾンWGであり、双方の視点から整合されたドキュメントとなるべくレビュー活動を実施している。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

福祉システム委員会

委員長

金本 昭彦

B2NEXT(株)

自治体の社会保障制度に関する事務処理システムを担当している委員会であり、介護、障害福祉、国保、後期高齢、子ども子育て、健康分野を各制度ごとにWGとして設置している。厚生労働省や内閣府、デジタル庁等より、データヘルス、医療DX、介護DX、自治体DX等に関する相談を受け、各WGと連携している。

介護保険事務処理システム WG リーダ 田中 卓 富士通Japan(株)

介護保険に関する制度改正の動向や最新情報等の情報収集を行い、会員へいち早く情報共有を実施している。また制度改正や新たな施策では、厚生労働省や国民健康保険中央会と連携を図りながら、システムベンダの立場から専門的な提言を積極的に行い、その内容も含め、会員へ情報共有を行っている。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

後期高齢者 WG リーダ 岩田 孝一 日本電気(株)

後期高齢者医療制度に関する制度改正の動向や最新情報等の情報収集を行い、会員へいち早く情報共有を実施している。また制度改正や新たな施策では、厚生労働省や国民健康保険中央会と連携を図りながら、システムベンダの立場から専門的な提言を積極的に行い、その内容も含め、会員へ情報共有を行っている。

障害者総合支援 WG リーダ 茶珍 啓一郎 富士通Japan(株)

障害者福祉に関する制度改正の動向や最新情報等の情報収集を行い、会員へいち早く情報共有を実施している。また制度改正や新たな施策では、厚生労働省や国民健康保険中央会と連携を図りながら、システムベンダの立場から専門的な提言を積極的に行い、その内容も含め、会員へ情報共有を行っている。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

子ども子育て支援 WG リーダ 河野 大輔 富士通Japan(株)

子ども子育て支援、児童手当等の児童福祉に関する制度改正の動向や最新情報等の情報収集を行い、会員へいち早く情報共有を実施している。また制度改正や新たな施策では、厚生労働省や内閣府と連携を図りながら、システムベンダの立場から専門的な提言を積極的に行い、その内容も含め、会員へ情報共有を行っている。

国民健康保険 WG リーダ 大村 周久 大村 周久

厚生労働省(国民健康保険中央会)が市町村向けサポートサイトに公開している情報を会員へいち早く情報共有を実施している。また制度改正や新たな施策では、厚生労働省や国民健康保険中央会と連携を図りながら、システムベンダの立場から専門的な提言を積極的に行い、その内容も含め、会員へ情報共有を行っている。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

保健衛生 WG リーダ 岩倉 竜太 (株)両備システムズ

データヘルス改革においてPHR等で自身の保健医療情報を閲覧できる仕組みの整備に向け、乳幼児健診・妊婦健診・特定健診・自治体検診、予防接種等における自治体向け健康管理システムの標準化を推進するとともに、関連分野において厚生労働省および地方自治体に対し、制度改正等に伴う支援や提言を実施している。この活動に参加いただけるメンバーを募集しています。

事業推進部 | 部長 **植木 精司** 富士フイルム医療ソリューションズ(株)

事業推進部は、「工業会参加価値の追求」を基本方針とし、会員内外に対する以下の事業を展開している。

- ・教育、セミナー、講習会等に関するもの
- ・展示会、博覧会等に関するもの
- ・学術団体、その他の関連団体との協調に関するもの
- ・出版、情報提供等に関するもの 等

事業企画委員会

委員長

木戸 須美子

キヤノンメディカルシステムズ(株)

会員へのサービス向上、財政基盤強化のための収益確保・拡大、JAHISプレゼンス向上などを目的として活動している。書籍「医療情報システム入門」の刊行・販売促進、JAHISの各委員会が持つノウハウを活かしたセミナーの開催を共同で行うとともに、e-Learningシステム等を用いたオンデマンド配信など、新しい事業の計画・立案・立ち上げを進めている。

ホスピタルショー委員会

委員長

佐藤 利斉

ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)

国際モダンホスピタルショー への出展を通じ、JAHIS のプレゼンス向上、日本経営協会・日本病院会等の関係団体との関係維持向上、等を推進している。

日薬展示委員会

委員長

宮島 毅

三菱電機ITソリューションズ(株)

毎年各地域で開催される日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示の取り纏め役として、開催県薬剤師会との折衝や出展各社への案内等を実施しており、日本薬剤師会等関係団体との関係維持、JAHISのプレゼンス向上を推進している。

教育事業委員会

委員長

三田村 一治

(株)NTTデータ

JAHIS会員を対象としたJAHIS教育コース及び勉強会を企画・実施し、JAHISからの情報提供、医療制度等の啓発、会員スキルアップへの寄与を目指している。

展示博覧会検討WG

リーダー

佐藤 利斉

ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)

メディカルジャパン、医療情報学連合大会等への関与を通じ、JAHIS のプレゼンス向上について、取り組んでいる。

新 JAHIS2030ビジョン

JAHIS2030ビジョン(改訂版)を 発行

戦略企画部
企画委員会 委員長
にしむら たけとし
西村 剛敏
(ウィーメックス㈱)



1. はじめに

JAHISはこれまで保健医療福祉情報システムの将来ビジョンを検討し、定期的に会員や関連団体に提示してきました。今回は情報通信技術や行政動向の変化に対応し、JAHIS創立30周年を記念して「2030ビジョン(改訂版)」を発行しました。本稿では「2030ビジョン(改訂版)」の発行経緯と取り組みを振り返り、その概要をご紹介します。

2. 「2030ビジョン(改訂版)」作成経緯

JAHISはこれまでに以下のビジョンを発行してきました。

- 「21世紀ビジョン」(1996年発行、2000年改版)
- 「2020年ビジョン」(2010年発行)
- 「2025ビジョン」(2015年発行)
- 「2030ビジョン」(2020年発行)

「2030ビジョン」では、情報技術革新や政府戦略のICT活用推進を背景に、「データ循環型社会の実現」をコンセプトとしました。このビジョンは「わかりやすい」「読みやすい」と好評を得ました。

「2030ビジョン(改訂版)」は「2030ビジョン」のコンセプトを踏襲しつつ、内容を充実させました。特に「医療DX」などの政府施策や国民の生活環境などこの5年間の出来事を加味した、保健医療福祉に関する経験が浅い方にも理解しやすい表現を心掛けました。

企画委員会メンバーや制作会社、医療ライターと共に推敲を重ね、「データ循環型社会の実現」を再確認しました。

3. 「2030ビジョン(改訂版)」の構成

「2030ビジョン(改訂版)」は以下の4章で構成されています。

- 「I. 2030年のヘルスケア」では、2030年の健康・医療・介護分野の将来像を展望します。
- 「II. JAHISが目指す方向性」では、JAHIS会員各社が提供するシステムが2030年のヘルスケア分野にどのように貢献するかを構想します。
- 「III. 目指す社会の想定と具体的な変革内容」では、「社会制度」「技術基盤」「財源と人材」の観点から考察します。
- 「IV. 2030年に向けたJAHISの取り組み」では、JAHISの具体的な取り組みを示します。

図表として「2030ビジョンと2030ビジョン(改訂版)表紙比較」「2030ビジョン(改訂版)目次」を掲載しています。JAHISホームページにPDF版で掲載いたしますので、ぜひご一読ください。

4. おわりに

本ビジョン作成にご協力いただいた各部会の皆様、

2023年5月のビジョン発行スケジュール作成を起点に1年半にわたる検討をいただきました企画委員会の皆様に感謝申し上げます。本ビジョンが保健医療福祉情報システムに関わる皆様の活動の一助となることを願っています。

また、企画委員会はJAHISのA会員、B会員で構成されています。企画委員会で共に活動いただける方も募集していますので、ご興味のある方からのご連絡お待ちしております。



2030ビジョン（初版）

表紙比較

2030ビジョン（改訂版）



目次	
はじめに	2
JAHISの使命と理念	3
I 2030年のヘルスケア	5
1 健康分野	5
1 健康的な生活をおくる人にとって	5
2 健康支援サービス提供事業者にとって	6
3 データに基づく健康支援サービスの提供	7
2 医療分野	8
1 患者にとって	8
2 医療機関にとって	8
3 データに基づく医療サービスの提供	9
3 介護分野	9
1 被介護者にとって	10
2 介護施設にとって	10
3 データに基づく介護サービスの提供	10
4 2030年に訪れるヘルスケア社会	11
II JAHISが目指す方向性	12
1 生涯の健康・医療・介護データを 利活用できる基盤の構築	14
1 情報の収集	14
2 利活用基盤の構築	14
3 収集されるデータ	14
2 2030年にJAHISが目指す データ循環型社会	16
1 データ循環型社会におけるデータとは	16
(1) 1次データ	16
(2) 2次データ	16
2 データ循環型社会におけるサービスとは	18
III 目指す社会の想定と 具体的な変革内容	20
1 社会制度について	20
1 想定	20
2 具体的な変革内容	20
(1) 個人情報保護法	20
(2) 次世代医療基盤法	21
(3) 生涯ID	21
(4) 公的DBの活用	22
2 技術基盤について	22
1 想定	22
2 具体的な変革内容	23
(1) 標準化	23
(2) 情報機器	23
(3) 通信インフラ	23
(4) セキュリティ	24
(5) ネットワーク	24
(6) AI (Artificial Intelligence)	25
3 財源と人材の基盤について	25
1 想定	25
2 具体的な変革内容	25
(1) 財源	25
(2) 人材	27
IV 2030年に向けた JAHISの取り組み	28
1 社会制度について	28
2 技術基盤について	28
3 財源と人材の基盤について	29
おわりに	30

2030ビジョン（改訂版）目次

2006 / 2007年



秋草 直之
富士通(株)
代表取締役会長

- 2006年
- ・地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業（経産省）受託
 - ・JAHISロゴマーク制定
 - ・医学会総会企画展示参加PJ発足
 - ・レセプトオンライン化勉強会開催
 - ・日本IHE協会の発足・参加
 - ・医療IT推進協議会の発足・参加
 - ・標準化推進部会の発足

- 2007年
- ・相互運用性実証事業完遂
 - ・IT適正評価推進PJ発足
 - ・JAHIS標準化セミナー開催（定期）
 - ・Webによる売上高統計システム始動
 - ・HIMSSAsiaPacific定点観測開始
 - ・日本医学会総会・博覧会「現在から未来につなぐ『いのちひと夢』を育む」（大阪開催）

2008 / 2009年



桂田 昌生
東芝メディカルシステムズ(株)
代表取締役社長(2008)
相談役(2009)

- 2008年
- ・地域医療情報連携システム標準化実証事業完遂
- 2009年
- ・JAHIS会誌創立15周年記念特別号を発刊
 - ・JAHIS表彰規定を制定
 - ・保健医療福祉情報基盤検討委員会発足
 - ・直接売上高4,000億円突破

2010 / 2011年



山下 徹
(株)NTTデータ
代表取締役社長

- 2010年
- ・JAHISの法人化（2010年7月1日一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会として発足）
 - ・一般社団法人設立披露祝賀会開催
 - ・JAHISホームページ刷新
- 2011年
- ・日本医学会総会・博覧会が東日本大震災により中止となり、同年6月に「わかろう医学つくろう!健康EXPO2011 ウェブ&体験博覧会（東京開催）」として開催
 - ・直接売上高5,000億円突破

	日本	世界		日本	世界		日本	世界
2006	堀江前社長、村上前代表を逮捕	北朝鮮が核実験とミサイル発射	2010	尖閣沖で中国漁船衝突	北朝鮮が韓国・延坪島砲撃	2014	解釈改憲で集団的自衛権容認	ウクライナ危機
2007	安倍首相突然の辞任、福田内閣の発足	米サブプライム問題	2011	東日本大震災、原発事故で被害甚大	北朝鮮・金正日総書記死去	2015	安全保障関連法が成立	世界各地でイスラム過激派のテロ
						2018	オウム松本元死刑囚らの刑執行	米朝が史上初の首脳会談
						2019	令和への代替わり	抗議デモで香港騒乱

2006

2008

2010

2012

2014

2016

2018

	日本	世界		日本	世界		日本	世界
2008	福田首相が辞任、麻生内閣の発足	金融危機が世界に波及、株価暴落	2012	第46回衆院総選挙で自公圧勝、政権奪還	中国トップに習近平氏	2016	天皇陛下、退位の意向示唆	米大統領選でトランプ氏勝利
2009	民主圧勝、政権交代	新型インフル、WHOがパンデミック宣言	2013	アベノミクス始動	スノーデン容疑者、米情報収集活動を暴露	2017	天皇退位、2019年4月末	北朝鮮、核・ミサイル開発加速

出典:時事ドットコム(時事通信社)の各年10大ニュースのトップ

2012 / 2013年



遠藤 信博
日本電気(株)
代表取締役執行役社長

- 2012年
- ・医療用ソフトウェア対応WG発足
 - ・JAHIS業務報告会を戦略企画部 業務報告会と改名し、JAHIS事務所にて開催
- 2013年
- ・JAHISアーカイブ供用開始
 - ・事業企画推進室の創設決定
 - ・コンプライアンス宣言の策定及びコンプライアンス規程の実運用開始

2016 / 2017年



山本 正巳
富士通(株)
代表取締役会長

- 2016年
- ・厚生労働省受託事業3件受託
 - ・JAHISホームページ刷新
- 2017年
- ・医薬品マスタの全件オンライン提供開始
 - ・最新トピックスに関する勉強会開始（データ活用、改正個人情報保護法、先端技術等）

2014 / 2015年



東原 敏昭
(株)日立製作所
代表執行役執行役社長兼COO

- 2014年
- ・事業企画推進室・コンプライアンス委員会の創設
 - ・専従の事務局長設置
 - ・JAHIS会誌創立20周年記念特別号発刊
 - ・ヘルスソフトウェア推進協議会（GHS）設立（JAHIS, JEITA, JIRA合同）
 - ・消費税（8%）対応
- 2015年
- ・運営会議のオンライン審議方式の導入検討着手
 - ・コンプライアンス遵守の各種規程策定

2018 / 2019年



岩本敏男
(株)NTTデータ
代表取締役社長(2018)
相談役(2019)

- 2018年
- ・「電子処方箋CDA記述仕様」策定支援
 - ・「個人情報管理取扱規程」施行
 - ・直接売上高6,000億円突破
- 2019年
- ・JAHIS創立25周年記念イベント開催及び記念会誌の発刊
 - ・消費税率（10%）対応
 - ・令和改正

2020年から2023年の事業報告概要

2020/2021年



会長

瀧口 登志夫

キヤノンメディカルシステムズ(株)

代表取締役社長

主な出来事

2020

2021

	日本	世界
2020	新型コロナ猛威、初の緊急事態宣言 東京オリンピック・パラリンピック1年延期 安倍首相が退陣、後任菅氏 九州で豪雨、死者多数	新型コロナでパンデミック宣言 米大統領選挙でバイデン氏勝利 香港、統制強める中国 英国、EU離脱
2021	東京オリンピック・パラリンピック1年延期で開催 コロナ長期化、進むワクチン接種 菅首相1年で退陣、後継は岸田氏 衆院選で自民絶対安定多数	新型コロナ、世界の死者500万人超 米アフガン撤収、タリバン政権発足 米大統領にバイデン氏就任 ミャンマーでクーデター

2020年度

2030ビジョンで描くヘルスケアICTの実現に向けた推進

1 国内標準化の状況(制定数)	JAHIS標準：5件 JAHIS技術文書：3件
2 国際標準化の対応	ISO/TC215、HL7、DICOM、IHE等の国際会議のほとんどがWeb開催となったが、各会議にエキスパートが参画して、日本および業界の立場で意見具申した。
3 その他の標準化に関する活動	医療情報システムの標準化普及推進活動の一環として、営業向け医療情報標準化セミナーをオンライン・ライブ配信にて2021年3月に開催した。
4 安全性・品質向上に関する活動	会員窓口向けに医療安全情報16件を広報するとともに、「日本病院薬剤師会との共同セミナー」を開催し、医療安全に対する意識付けを図った。
5 医療ICT関連事業への活動	「オンライン資格確認」や「データヘルスの集中改革プラン」をはじめとする厚生労働省や総務省が実施する調査研究事業について、積極的に受託事業者と連携をとり助言を行うとともに、事業内の有識者会議等に委員を派遣し、JAHISとしての意見を施策に反映させた。

JAHIS参画価値の追求、健全な市場の維持・発展

- ・厚生労働省や社会保険診療報酬支払基金本部、国民健康保険中央会、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会等と課題の整理と情報共有を行い、会員各社へのタイムリーな情報提供を実施した。また、最新の政策動向へ対応するため、新しい組織を新設する等により、柔軟に対応を実施した。
- ・人材育成の観点では、医療情報システム入門コース等の教育、および、2012年度から開始した「JAHIS標準・技術文書解説セミナー」について、会員のノウハウ向上に資するテーマで今年度も実施した。
- ・COVID-19の影響により、1月に予定していた講演会&賀詞交歓会は中止としたが、それに代わるイベントとして「JAHISオンライン新春講演会」を企画し開催した。
- ・国際モダンホスピタルショウ2020が中止となったため、代替として「JAHIS報告会2020秋」を企画し、10月にオンラインで開催した。
- ・海外オンラインセミナーをJAHISとして初開催し、ドイツ連邦保健省よりライブ配信を行った。テーマは「Withコロナにおけるドイツの医療保障制度・医療ICT化の現状と将来展望」とし、医療政策、医療ICT化の現状と展望(電子処方箋、テレヘルス)、EHRとPHRの現状と展望(GDPRと利活用の関係性)等について、ドイツ連邦保健省より講演いただいた。

JAHISブランドの向上、永続的な運営基盤の確立

- (1) 「JAHIS2030ビジョン～データ循環型社会の実現に向けて～」の動画をYouTubeにて公開した。
- (2) JAHIS規程5005号「JAHIS会員の従業員に対する表彰規程」を改定し、従来の基準での表彰を「功績賞」と改名、委員登録から3年以内の若手を表彰するために新たに「奨励賞」を新設した。
- (3) JAHISのステータス向上に向けた3つの施策として、①新規会員獲得のための市場調査、②会員意識調査、③HPの改善検討を実施した。
- (4) マイナンバーの取り扱いに対応するため、新たに「特定個人情報取扱規程」(JAHIS規程5031号)を制定した。

2021年度

2030ビジョンで描くヘルスケアICTの実現に向けた推進

1 国内標準化の状況(制定数)	JAHIS標準：2件 JAHIS技術文書：3件
2 国際標準化の対応	国際会議のほとんどがWeb開催となったが、各会議にエキスパートが参画して日本および業界の立場で意見具申した。
3 その他の標準化に関する活動	・医療情報システムにおける標準類オーバービューチャートについて、既存記載内容の最新化とそれに伴うJAHIS サイトの改修を実施した。
4 安全性・品質向上に関する活動	・JAHIS 会員向けに「リスクマネジメント勉強会【特別編】」を7月にオンラインで開催し、安全性への取組みの重要性について事例を交えながら、取組み方法の解説を行った。 ・「日本病院薬剤師会との共同セミナー」を開催し、医療安全に対する意識付けを図った。
5 医療ICT関連事業への活動	・有識者会議である「健康・医療・介護情報利活用検討会」にオブザーバとして参加した。 ・ACTION2（電子処方箋の仕組みの構築）に関しては、支払基金および事業受託先と週次で定例会を実施し、活発な議論を行った。 ・厚生労働省や総務省が実施する調査研究事業等においては、有識者会議等に委員を派遣し、JAHIS としての意見を施策に反映するよう活動した。 ・2021年12月からは、厚生労働省医政局政策医療課医療技術情報推進室との定期的な会議を開催し、積極的に意見交換を開始した。 ・(一社) Medical Excellence JAPAN (MEJ) 四次元医療改革研究会の評議会に参加し、当研究会が2021年9月に策定した「電子カルテシステムの改革にむけた提言」には、JAHIS の意見が反映された。 ・2021年12月7日にMEJ と日本経済新聞社が共同で開催した「日経SDGs フェス：健康・医療のデジタル改革に向けて MEJ 四次元医療改革研究会 近藤達也先生追悼シンポジウム」に会長が登壇し、「『電子カルテシステムの改革に向けた提言』に対するJAHIS の取り組み」と題して講演を行った。

JAHIS参画価値の追求、健全な市場の維持・発展

- ・厚生労働省や社会保険診療報酬支払基金本部、国民健康保険中央会、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会等と課題の整理と情報共有を行い、会員各社へのタイムリーな情報提供を実施した。
- ・日本病院薬剤師会の医療安全情報や内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）のセキュリティ情報の共有などを行った。
- ・人材育成の観点では、医療情報システム入門コース等の教育、および、「JAHIS 標準・技術文書解説セミナー」について、会員のノウハウ向上に資するテーマで実施した。
- ・「賀詞交換会」は中止したが、オンライン・ライブ配信で新春講演会を開催した。
- ・JAHIS会員会社の売上高調査を毎年半期毎に継続して実施し、集計結果を会員向けに公表した。
- ・中国からのライブ配信による海外オンラインセミナーを開催した。テーマは「中国医療ICT化の現状と今後の展望について」とし、中国医療環境の基礎知識、医療デジタル化の現状と今後等についてご講演いただいた。

JAHISブランドの向上、持続的な運営基盤の確立

- (1) COVID-19 の感染拡大に対し、職員のテレワークや会議室利用時の人数制限等による三密回避の施策を継続するとともに、イベントのオンライン化／ハイブリッド化などを積極的に推進し、活動への影響を最小限に留めた。
- (2) 情報システムの大規模リニューアルの計画的推進に向けて、情報システム検討委員会にて検討を行い、システム構築を依頼するパートナーを決定した。
- (3) コンプライアンス自己監査を実施し、問題がないことを確認した。
- (4) 多様性を尊重した幅広い人材の育成・登用に向け、女性会員の活躍を推進する取組みの一環として、初の試みとなる女性向けセミナーを2021年11月に開催した。

2022/2023年



会長
森田 隆之
日本電気(株)
代表取締役
執行役員社長兼CEO

主な出来事

2022

2023

	日本	世界
2022	安倍元首相撃たれ死亡 旧統一教会との関係、政界揺るがす 円安、資源高で値上げラッシュ 五輪汚職で組織委元理事ら逮捕	ロシアがウクライナ侵攻 中国で習政権3期目発定 北朝鮮、相次ぎミサイル発射 インフレ加速、米欧大幅利上げ
2023	裏金疑惑、岸田政権を直撃 新型コロナ「5類」移行 原発処理水放出、中国は反発 性加害でジャニーズ「解体」	イスラエル・ハマス軍事衝突 生成AIに脚光、規制も課題に ウクライナ戦況こう着、ウグネル反乱 大谷MVP、ドジャース移籍

2022年度

2030ビジョンで描くヘルスケアICTの実現に向けた推進

1 国内標準化の状況(制定数)	JAHIS標準：10件 JAHIS技術文書：3件
2 国際標準化の対応	国際会議のリアル開催が徐々に増えた。Webでの開催も併用しながら各会議に参画した。
3 その他の標準化に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年6月にセキュリティ関連セミナーを実施した。 ・2022年10月に「MDS/SDS書き方セミナー」を開催し、安全管理ガイドライン等の普及を推進するとともに、サイバーセキュリティ対策に関する意識啓発を行った。
4 安全性・品質向上に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・JAHIS 会員向けに「リスクマネジメント勉強会【特別編】」を12月にオンラインで開催し、安全性への取組みの重要性について事例を交えながら、取組み方法の解説を行った。 ・「日本病院薬剤師会との共同セミナー」を開催し、医療安全に対する意識付けを図った。
5 医療ICT関連事業への活動	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に続き、有識者会議である「健康・医療・介護情報利活用検討会」にオブザーバとして参加した。 ・ACTION2（電子処方箋の仕組みの構築）に関しては、2022年10月にはモデル事業開始、2023年1月26日本格運用開始とするなど、重要な局面を迎えたため、隔週ベースの定例会を実施し、発生している事象の共有や課題に対する活発な議論を行った。 ・診療報酬改定分野においては、 <ol style="list-style-type: none"> ①【診療報酬情報デジタル化】 ②【診療報酬算定モジュール】 ③【診療報酬改定作業ピーク抑制化】 が政府の経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）に採用され、JAHISの提言が政府の方針に採用されるという画期的な成果をあげた。

JAHIS参画価値の追求、健全な市場の維持・発展

- ・厚生労働省や社会保険診療報酬支払基金本部、国民健康保険中央会、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会等と課題の整理と情報共有を行い、会員各社へのタイムリーな情報提供を実施した。
- ・日本病院薬剤師会の医療安全情報や内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）のセキュリティ情報の共有などを行った。
- ・人材育成の観点では、医療情報システム入門コース等の教育、セミナーを実施した。
- ・診療報酬改定情報、介護報酬改定情報、医療保険制度改正情報、介護保険制度改正情報、地方単独医療費助成制度情報、医薬品告示情報等、各種情報をタイムリーに医事コン・レポートにて会員に提供した。
- ・「医療情報システム入門コース」をはじめとする教育コース、各種勉強会やセミナーについては、継続してオンライン形式で開催した。
- ・「賀詞交換会」は中止したが、オンライン・ライブ配信で新春講演会を開催した。
- ・JAHIS会員会社の売上高調査を毎年半期毎に継続して実施し、集計結果を会員向けに公表した。
- ・海外オンラインセミナーを「アメリカ フランスのリフィル処方箋制度と運用について」というテーマで開催した。

JAHISブランドの向上、永続的な運営基盤の確立

- (1) イベントのオンライン化/ハイブリッド化などを積極的に推進し、活動への影響を最小限に留めた。
- (2) 情報システム検討委員会を中心にシステム構築を依頼したパートナーと設計、開発、評価を進めた。
- (3) コンプライアンス自己監査を実施し、問題がないことを確認した。
- (4) 前年と同様に、「オンラインセミナー・女性交流会」を2022年11月に開催した。

2023年度

2030ビジョンで描くヘルスケアICTの実現に向けた推進

1 国内標準化の状況(制定数)	JAHIS標準：3件 JAHIS技術文書：7件
2 国際標準化の対応	2022年度に続きWebでの参加を併用しながら各会議に現地参加して、日本および業界の立場で意見具申を行った。
3 その他の標準化に関する活動	標準類オーバービューチャートについて、4月にリニューアル公開した。
4 安全性・品質向上に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第6.0版」(2023年5月)の策定に当たっては、改定作業に協力するとともに改定内容のJAHIS標準類へのタイムリーな反映を行った。 「日本病院薬剤師会との共同セミナー」を開催し、医療安全に対する意識付けを図った。 医療機関の現場でのVPN装置の目視確認を呼びかけ、確認結果をJAHISホームページで公開した。 サイバーセキュリティを担当するTFを設置した。 7月の「セキュリティ関連セミナー」、11月の「MDS/SDS書き方セミナー」を会員外含めて無償化。外部講師も招くなど、従来の内容をさらに充実させて実施し、それぞれ350名、400名を超える参加者があった。 11月～2月には、厚生労働省より提供を受けた「サイバーセキュリティ 立ち入り検査研修ビデオ」を配信し、600名以上の方が受講した。
5 医療ICT関連事業への活動	<ul style="list-style-type: none"> 継続して「健康・医療・介護情報活用検討会」にオブザーバとして参加した。 ACTION1(全国で医療情報を確認できる仕組みの拡大)では、次の4点について、論点整理を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ①電子カルテ情報の標準化及び地域医療情報連携ネットワークの現状 ②中央に集約して共有する医療情報と施設等間で交換する医療情報の検討 ③上記の医療情報の共有・交換に関する手続きと方式の検討 ④電子カルテの普及方策と情報化支援基金の要件等の検討 ACTION2(電子処方箋の仕組みの構築)では、月1～2回程度の議論の場を設けており、適宜、厚生労働省医薬局と意見交換を行った。

JAHIS参画価値の追求、健全な市場の維持・発展

- 厚生労働省や社会保険診療報酬支払基金本部、国民健康保険中央会、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会等と課題の整理と情報共有を行い、会員各社へのタイムリーな情報提供を実施した。
- 日本病院薬剤師会の医療安全情報や内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)のセキュリティ情報の共有などを行った。
- 人材育成の観点では、医療情報システム入門コース等の教育、セミナーを実施した。
- 診療報酬改定情報、介護報酬改定情報、医療保険制度改正情報、介護保険制度改正情報、地方単独医療費助成制度情報、医薬品告示情報等、各種情報をタイムリーに医事コン・レポートにて会員に提供した。
- 「医療情報システム入門コース」をはじめとする教育コース、各種勉強会やセミナーについては、継続してオンライン形式で開催した。
- 従来の「講演会&賀詞交換会」を4年ぶりにイイノホールで開催した。
- JAHIS会員会社の売上高調査を毎年半期毎に継続して実施し、集計結果を会員向けに公表した。

JAHISブランドの向上、持続的な運営基盤の確立

- JAHIS規則、規定類に関して、従来のJAHIS会員としての資格・権利を守りながら、現実に即して機敏に対応できる形に見直しを行った。さらに、A、B会員に関しては、グループ会社(完全子会社)による運営を可能とするように改定を実施した。
- 情報システムの大規模リニューアルは2023年4月に第一期のリリースを完了した。新たに会員向けのポータルページとなる「マイページ」を導入する等、会員の利便性の向上を図った。
- コンプライアンス自己監査を実施。発生した課題に関して、規程の見直しを含め、迅速な対応を実施した。
- 前年と同様に、「オンラインセミナー・女性交流会」を2023年11月に開催した。

2020年4月以降に制定されたJAHIS標準

※以下、2020年4月以降に制定したJAHIS標準の最新版を降順で掲載しています。

これまでに制定したJAHIS標準は、JAHISホームページで公開しています。

参照URL ⇒ https://www.jahis.jp/standard/contents_type=33

番号	名称	制定年月	担当委員会	概要/目的
24-006	JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインVer.5	2024年 9月	医療システム部会 セキュリティ委員会 電子保存WG	<p>概要: JAHIS標準Ver.4は、3省2ガイドライン（厚生労働省ガイドライン第5.2版2022年3月発行、総務省・経産省ガイドライン2020年8月発行）に対応したものであるが、厚生労働省ガイドラインが第6.0版として2023年5月に更新された。また、総務省・経済産業省ガイドラインの第1.1版も2023年7月に更新された。3省2ガイドラインの改定内容をJAHIS標準Ver.4に反映し、Ver.5として発行することとした。</p> <p>目的: 医療情報システムのベンダがシステム開発する際の参考規準となりうるガイドラインを示すことで、国内の医療情報システムセキュリティレベルを一定以上に保つ。また、医療機関が医療情報システムの仕様決定及び選定、または、日々の運用手順を規定する場合の参考資料として利用されることを期待する。</p>
24-005	JAHIS「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.5.0(MDS/SDS)	2024年 9月	医療システム部会 セキュリティ委員会 JAHIS-JIRA合同 開示説明書WG	<p>概要: 厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」第6.0版に対応するため必要箇所を変更する。 本書は、安全管理ガイドライン第6.0版（2023.5発行）に基づく開示書書式と、この書式の記入方法と解説からなっています。また、読者の知識としては、安全管理ガイドラインの理解を前提にしています。Q&A集も発行されていますので併せてご参照ください。</p> <p>目的: 最新版の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」第6.0版に対応するため。本書の意図は、医療機関等が医療情報システムによって保存、伝送される医療情報に関するリスクアセスメントを行うとき、それを支援できる重要な情報を提供することにあります。製造業者/サービス事業者は、標準化された書式を使用することにより、自らが製造する医療情報システムのセキュリティ関連機能に関して、医療機関等から情報提供を要求されたとき迅速に応えることができます。一方、医療機関等は、標準化された書式の記載により、製造業者/サービス事業者によって提供されるセキュリティ関連情報のレビューを行い易くなります。</p>
24-004	リモートサービスセキュリティガイドラインVer.4.0	2024年 8月	医療システム部会 セキュリティ委員会 JAHIS/JIRA合同 リモートサービス セキュリティ作成 WG	<p>概要: JAHIS標準「リモートサービスセキュリティガイドライン Ver.3.1a」に対し、最新動向を踏まえた改訂を実施する。以下の項目を修正もしくは追加する。 参照しているISO/IEC 27001:2013が2022版に改定されたことを受け、当該部分を修正する。また同時に、最新版の厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」の当該部分に準拠させる。改訂の内容に鑑み、Ver.4.0とした。</p> <p>目的: 医療分野における遠隔保守（リモートサービス）のあり方と、情報セキュリティマネジメントと個人情報保護の視点からリモートサービスのリスクアセスメントを研究し、医療機関と医療機器ベンダがそれぞれどのようなセキュリティ対策を取るべきかの検討を行ってきた。その成果として、JAHIS標準「リモートサービスセキュリティガイドライン」を制定し、リモートサービスを安全に行うための実践的なガイドラインを示す。</p>
24-003	JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.5.0C	2024年 7月	医療システム部会 部門システム委員会	<p>概要: JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.4.0C（2016年7月）は制定後3年以上経過したため、JAHIS規程3001号第24条の要求により見直しを行った。見直しにあたっては以下の規約等との整合をとる。 ・JAHISデータ交換規約（共通編）Ver.1.3 ・HL7 V2.5日本語見直し版（2020年6月発行） ・IHE PaLM Technical Framework</p> <p>目的: 医療情報システムにおける相互運用性の普及推進及び、最新情報への準拠。</p>
24-002	JAHIS HPKI対応ICカードガイドラインVer.3.1	2024年 4月	医療システム部会 セキュリティ委員会 セキュアトークン WG	<p>概要: Ver.3.0aに対して、実装例についてRSA2048への対応を追記するとともに、最新のガイドライン等への整合性を確保する。 本Ver.3.1はタイトルのバージョン表記を他のJAHIS標準に合わせた上で、第1版、第2版を統合し、最新の動向を踏まえて追加改定を行ったものである。また本ガイドラインは、制定された「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格Ver.2.0」及び「JAHIS HPKI 電子認証ガイドライン Ver.1.1」とともに利用されることを前提としており、同規格の下で利用されるICカードの相互運用性の仕様も定めている。</p> <p>目的: 電子署名及び電子認証に対応したHPKIの要求仕様を満たし、相互運用性の確保するICカードのガイドラインを策定する。</p>

番号	名称	制定年月	担当委員会	概要/目的
24-001	JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格Ver.3.0	2024年 4月	医療システム部会 セキュリティ委員会	<p>概要: 欧州電気通信標準化機構(ETSI)よりJSON形式への電子署名の規格 JAdES(JSON format for AdES)が公開されたため、JAHIS標準 18-006「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格 Ver.2.0」に追加を行うための改定を行う。その他、最新化に伴い必要な修正も併せて行う。</p> <p>目的: 異なるシステム間において、電子署名及びタイムスタンプが付された電子文書の署名検証や証明書検証を確実にするための電子署名フォーマットの標準規約として、FHIR等で利用されているJSON形式にも対応可能とし、電子署名ソフトウェア、署名検証ソフトウェアなどの互換性の確保を行う。</p>
23-003	JAHIS注射データ交換規約Ver.2.2C	2024年 1月	医療システム部会 相互運用性委員会	<p>概要: JAHIS注射データ交換規約は注射薬剤に関する病院内部門システム間のデータ交換のメッセージ規約である。広く活用できる規約をめざし、HL7 Ver.2.5に対応したメッセージを基軸とし、同じ薬剤業務のメッセージである「処方データ交換規約」との整合性を考慮しながら、経済産業省「医療情報システムにおける相互運用性の実証事業」の成果を参考に本規約を作成した。</p> <p>最新版である Ver.2.2Cでの主な改版内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本HL7協会が公開した「HL7 Ver.2.5 日本語見直し版」を基に表現の見直し ・「JAHISデータ交換規約(共通編) Ver.1.3」や他の標準規約との整合性の確保、及び、データ交換規約の章構成の統一 ・外部から JAHIS標準で定義したコード表を参照する際に必要となるOIDの付番 ・各ベンダが提供する製品の JAHISデータ交換規約への適合性を評価し、公表するための適合性宣言書の採用 ・外部出版社による原案の校正 <p>目的: 注射薬剤分野におけるデータ交換について相互運用性を確保する。</p>
23-002	JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約Ver.3.0	2023年 8月	医療システム部会 検査システム委員会 内視鏡部門システム委員会	<p>概要: JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約 Ver.2.0は2019年2月発行であり、この JAHIS標準はDICOM規格書 2018e版の内視鏡画像データ関連箇所を抽出し日本語訳することにより、内視鏡部門システムや PACS等の関連システムにDICOM実装する JAHIS会員の便宜を図ったものである。</p> <p>DICOM規格は、JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約の Ver.2.0が参照している 2018e版から、本年1月に公開された 2023a版までに 21回の改定を経ており、この間の更新差分を反映する。(改定後、Ver.2.0は旧版とする)</p> <p>目的: 内視鏡のDICOM画像データに関する相互運用性の向上に寄与することを目的とする。</p>
22-010	JAHISシングルサインオンにおけるセキュリティガイドラインVer.2.1	2023年 3月	医療システム部会 セキュリティ委員会 シングルサインオンWG	<p>概要: JAHIS標準 18-004「JAHISシングルサインオンにおけるセキュリティガイドライン Ver.2.0」に対し、米国を中心に規格化が進んでいる FHIRのセキュリティ要件・ユースケース例をリスクアセスメント対象に追加する。FHIRにおいてシングルサインオン実装の際に利用が推奨されている OAuth 2.0、及び OpenID Connectはユースケースに組み込まれていない為、対象プロトコルとして、新たにユースケースに追加する。</p> <p>目的: 医療情報システムも院内に閉じず外部ネットワークのシステムと連携することが多くなり、外部施設との情報交換や、地域、広域としての医療基盤が必要となってきている。また、近年、米国を中心に次世代規格として FHIRの規格化が進んでいる。そのような中、JAHIS標準 18-004「JAHISシングルサインオンにおけるセキュリティガイドライン Ver.2.0」に対し、FHIRを用いたセキュアなシングルサインオンに関して、情報セキュリティマネジメントと個人情報保護の視点から、医療機関とベンダーがそれぞれどのようなセキュリティ対策を行って実装すべきかの指針を示すことを目的とする。</p>
22-009	JAHIS病理・臨床細胞データ交換規約Ver.2.1C	2022年 9月	医療システム部会 検査システム委員会 相互運用性委員会	<p>概要: 「JAHIS病理・臨床細胞データ交換規約 Ver.2.0C」に対して以下の変更を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「JAHISデータ交換規約(共通編) Ver.1.3」改定内容の反映。 2. 日本HL7協会 2020年6月公開の HL7 Ver.2.5日本語見直し版適用。 3. 病理-内視鏡連携の見直し。 <p>目的: IHE-J病理テクニカルフレームワークの実装を考慮した病院情報システム(HIS)と病理・臨床細胞部門システム(AP-LIS)のデータ交換の普及に寄与する。 医療情報システムにおける相互運用性の普及推進及び、最新情報への準拠。</p>

番号	名称	制定年月	担当委員会	概要／目的
22-008	JAHIS病理・臨床細胞DICOM画像データ規約 Ver.4.0	2022年 9月	医療システム部会 検査システム委員会	<p>概要： 「JAHIS病理・臨床細胞DICOM画像データ規約 Ver.3.1」に対して以下の変更を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DICOM規格書の2022年度最新版への対応。(DICOM-2022a版を予定) 2. アノテーション関連モジュールの追加 3. 任意選択データ要素(TYPE 3)の省略 4. 参照されなくなったモジュールの削除 5. DICOM画像フォーマット例の見直し <p>目的： 病理・臨床細胞部門の画像データに関する相互運用性の向上に寄与することを目的とする。</p>
22-006	JAHIS放射線データ交換規約Ver.3.2C	2022年 4月	医療システム部会 相互運用性委員会 検査システム委員会	<p>概要： JAHIS放射線データ交換規約は、HIS-RIS（放射線部門システム）間における基本的なデータ交換について、相互運用性を確保するべく、ISO国際標準規格である HL7 Ver.2.5を用いた実装要件を規定している。なお、本規約はHIS-RIS間に特化しており、JAHISデータ交換規約（共通編）と併せて実装されることを想定している。 JAHIS放射線データ交換規約 Ver.3.2Cは、前Ver.3.1C（2017年4月）発行より3年が経過したため、規定により見直しを行った。JAHISデータ交換規約（共通編） Ver.1.3や、JAHIS内視鏡データ交換規約 Ver.3.2C の記述内容との整合性確保を行っている。また、HL7 Ver.2.5日本語訳見直し版との整合性も行った。</p> <p>目的： HIS-放射線検査部門システム間におけるデータ交換について相互運用性を確保する。</p>
22-005	JAHIS内視鏡データ交換規約Ver.3.2C	2022年 4月	医療システム部会 相互運用性委員会 検査システム委員会	<p>概要： JAHIS内視鏡データ交換規約は、HIS-内視鏡部門システム間における基本的なデータ交換について、相互運用性を確保するべく、ISO国際標準規格である HL7 Ver.2.5を用いた実装要件を規定している。なお、本規約はHIS-内視鏡部門システム間に特化しており、JAHISデータ交換規約（共通編）と併せて実装されることを想定している。 JAHIS内視鏡データ交換規約 Ver.3.2Cは、前Ver.3.1C（2017年4月）発行より3年が経過したため、規定により見直しを行った。JAHISデータ交換規約（共通編） Ver.1.3や、JAHIS放射線データ交換規約 Ver.3.2C の記述内容との整合性確保を行っている。また、HL7 Ver.2.5日本語訳見直し版との整合性も行った。</p> <p>目的： HIS-内視鏡検査部門システム間におけるデータ交換について相互運用性を確保する。</p>
22-004	JAHIS生理検査データ交換規約Ver.3.1C	2022年 4月	医療システム部会 相互運用性委員会	<p>概要： JAHIS生理検査データ交換規約は、HL7 Ver.2.5に基づき、生波形式としてISO/TSとして発行されたMFER(MFER Medical waveform Format Encoding Rules)を用い、心電図検査、脳波検査、呼吸機能検査など各種生理検査におけるデータ交換の規約としてVer.1.0(2007年8月)を発行した。 最新版であるVer.3.1Cでは、最新のJAHISデータ交換規約共通編への対応を行うとともに、内容を実際に運用されている生理検査情報システムにあわせて絞込み、また実装者の理解を助けるため HIS、LIS、Modality それぞれの立場で使用するメッセージを判りやすい表現で見直しを行った。</p> <p>目的： 電子カルテシステム・生理検査部門システム間のデータ交換について相互運用性を確保する。</p>
22-003	JAHISデータ交換規約(共通編) Ver.1.3	2022年 4月	医療システム部会 相互運用性委員会	<p>概要： JAHISデータ交換規約（共通編）は、各JAHISデータ交換規約の共通内容の記載をしている。 最新版であるVer.1.3では、HL7 Ver.2.5 日本語見直し版の表現を基にした見直しや、各ベンダが提供する製品のJAHISデータ交換規約への適合性を評価した適合性宣言書の採用、被保険者証の枝番対応、患者プロフィール項目の感染レベル見直しを行っている。</p> <p>目的： 各JAHISデータ交換規約の共通的な内容を記載し、データ交換に関するドメイン間の仕様の整合性を確保する。</p>

番号	名称	制定年月	担当委員会	概要／目的
22-002	JAHIS放射線治療サマリー構造化記述規約Ver.1.0	2022年 4月	医療システム部会 検査システム委員会	<p>概要： 放射線治療分野における電子カルテ・オーダリングシステムと放射線治療部門情報システムとの間のデータ交換については、JAHIS放射線治療データ交換規約 Ver.1.1Cのリリースで、トランザクションデータに関する規約を整備することができた。未着手の領域として、放射線治療サマリー・放射線実施報告書があり、これは他施設への放射線実施依頼や初回治療後の転移・再発に伴う再治療に際して、臨床的に重要なデータ項目を多数含んでいる。現状は、紙媒体を用いたやり取りやベンダー独自形式の電子フォーマットであるため、その標準規約を整備し、より安全・効果的な医療情報環境を提供したい。</p> <p>目的： 放射線治療分野における標準化されたレポートの普及推進を主な目的とする。 HL7 CDA R2による放射線治療レポートの普及に寄与する。</p>
21-002	JAHIS内視鏡検査レポート構造化記述規約Ver.1.0	2021年 8月	医療システム部会 検査システム委員会	<p>概要： 内視鏡検査依頼部門及び内視鏡部門、病理部門間で相互に参照される内視鏡検査レポートを対象とし、日本消化器内視鏡学会と連携するJED研究機構が開発した用語集の使用を想定した標準規約を整備し内視鏡分野での標準化を進めたい。</p> <p>目的： 内視鏡部門で作成するレポートの標準化により、院内、施設間での相互運用性を高め治療効果向上、医療安全に寄与する。</p>
21-001	JAHISヘルスケア分野における監査証跡のメッセージ標準規約Ver.2.1	2021年 5月	医療システム部会 セキュリティ委員会	<p>概要： 個人情報保護法、医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドダンス、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに対応した監査証跡の取り扱いについて、2006年12月に最低限の要件を規定した標準規約を制定し、2014年3月に Ver 2.0(13-009)への改訂を行った。その後、引用規格であったDICOM PS3.15が改訂され、複数のイベントIDとイベントタイプコードが追加された。それを受けISO27789の改訂が行われている。それらとの整合性を取るため Ver 2.1への改訂を行う。</p> <p>目的： 引用規格であったDICOM PS3.15の改訂が行われ、複数のイベントIDとイベントタイプコードが追加され、JAHIS標準内で定義しているイベントIDやイベントタイプコードと不整合を生じている。改訂の方向としては、これらの不整合の解消である。具体的にはEvent IDの定義の変更、メッセージ項目の変更等である。</p>
20-004	JAHIS病理診断レポート構造化記述規約Ver.2.0	2021年 2月	医療システム部会 検査システム委員会	<p>概要： 「JAHIS 病理診断レポート構造化記述規約 Ver.1.0」に対して以下の改定を行う。 「JAHIS 診療文書構造化記述規約共通編Ver.2.0」への対応 ①章立ての変更 ②スキーマロンに対応可能な記載方法への修正 ③サンプルコードの記載追加 ④印刷／表示例の記載追加</p> <p>目的： 病理診断レポートを他部門の診療文書類と同様に標準化することにより、データの二次解析や施設間連携など相互運用性の向上に寄与することを目的とする。</p>
20-002	JAHIS診療文書構造化記述規約共通編Ver.2.0	2020年 5月	医療システム部会 検査システム委員会	<p>概要： 2015年8月に制定された「JAHIS診療文書構造化記述規約共通編 Ver.1.0」も5年を経過し、その間に本共通編に対応した幾つかの個別編がリリースした。今回の改訂では、Ver.1.0以降の知見を集約している日本HL7協会発行の個別編「退院時サマリー規格 Ver.1.0」にあわせ、スキーマロン対応とそのため表記法見直し、及び既知の誤植に対応した。一部互換性を欠く部分があること、曖昧さを避けるため表記法を大幅に変えたため、メジャーバージョンアップとした。</p> <p>目的： HL7 CDAR2ベースで作成される各種診療文書について最低限の共通化（主にヘッダ部）仕様をまとめる。また、今後の個別編作成に対し書式・構成等の推奨を行い、利用者の理解を助けることを目的とする。</p>

2020年4月以降に制定されたJAHIS技術文書

※以下、2020年4月以降に制定したJAHIS技術文書の最新版を降順で掲載しています。

これまでに制定したJAHIS技術文書は、JAHISホームページで公開しています。

参照URL ⇒ https://www.jahis.jp/standard/id=88?contents_type=33

番号	名称	制定年月	担当委員会	概要／目的
24-105	電子処方箋運用における 薬局レセコンと電子薬歴 システムの連携仕様書 Ver.1.1	2024年 11月	医事コンピュータ部会 調剤システム委員会	<p>概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> レセプトコンピュータから電子薬歴システムへの連携方法を追加 JAHIS標準類テンプレートの適用 <p>目的：</p> <p>Ver.1.0で継続検討事項としていたレセプトコンピュータから電子薬歴システムへの連携方法を追加。</p>
24-104	JAHIS電子版お薬手帳 データフォーマット仕様書 Ver.2.6	2024年 9月	医事コンピュータ部会 調剤システム委員会	<p>概要：</p> <p>電子版お薬手帳データフォーマット仕様書Ver.2.5の改定</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和6年10月長期収載品の選定療養への対応を実施 JAHIS標準類テンプレートの適用 <p>目的：</p> <p>長期収載品の選定療養において、電子版お薬手帳データフォーマットの記録方法について注釈を追記する為。</p>
24-103	JAHIS院外処方箋2次元 シンボル記録条件規約 Ver.1.10	2024年 9月	医事コンピュータ部会 調剤システム委員会	<p>概要：</p> <p>院外処方箋2次元シンボル記録条件規約 Ver.1.9の改定</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和6年10月長期収載品の選定療養への対応を実施 JAHIS標準類テンプレートの適用 <p>目的：</p> <p>長期収載品の選定療養において、院外処方箋2次元シンボルの記録方法について注釈を追記する為。</p>
24-101	JAHIS看護データセット 適用ガイド 看護行為編 Ver.1.1	2024年 4月	医療システム部会 部門システム委員会	<p>概要：</p> <p>システムリプレイス及び地域連携における相互運用性向上を目的に、電子カルテシステム等に含まれる看護指示・実施記録情報を対象として作成した『JAHIS看護データセット適用ガイド 看護行為編 Ver.1.0』に、新たに看護指示・実施判断などで必要な情報である「患者状態」の仕様検討・追加し、改版を行った。</p> <p>目的：</p> <p>医療情報システムにおける看護関連情報の共有及びリプレイス時の継承、継承のための作業工数を低減し、看護情報の地域連携及び施設間における情報利活用促進のため。</p>
23-107	JAHIS医療情報システムの 患者安全ガイド(輸血編) Ver.2.2	2024年 3月	医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会	<p>概要：</p> <p>一般社団法人日本輸血・細胞治療学会の赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン（改訂4版）において、コンピュータクロスマッチのガイドラインが改定されているが、患者安全ガイド（輸血編）のコンピュータクロスマッチに関する記載についても、ガイドラインの改定内容に準じた改版が必要と判断されるため、該当部分の見直しを行う。</p> <p>目的：</p> <p>業界として自主的にガイドを作成し、患者安全に寄与する。また、JAHISのプレゼンス向上に寄与する。</p>
23-105	HIS向け医療材料マスター の提供ガイドVer.1.2	2024年 3月	医療システム部会 部門システム委員会	<p>概要：</p> <p>JAHIS「HIS向け医療材料マスターの提供ガイドVer.1.1」は2017年3月発行であり、このJAHIS技術文書は、外部から供給された医療材料マスターを病院・クリニックなどの医療機関内において各種情報システムに取り込む際の要求事項と実装方式を定め、医療材料マスターの取り込みを実装するJAHIS会員の便宜を図ったものである。2023年7月現在、MEDIS-DC（一般財団法人 医療情報システム開発センター）の医療機器データベースは2017年11月以降、数回改版されており更新差分を反映することにより、最新のMEDIS-DCの標準マスターとの同期を図る。</p> <p>目的：</p> <p>HIS向け医療材料マスターの取り込み実装に関する相互運用性の向上に寄与することを目的とする。</p>

番号	名称	制定年月	担当委員会	概要／目的
23-104	JAHISセキュアトークン実装ガイド・ノード認証編 Ver.1.2	2024年 2月	医療システム部会 セキュリティ委員会 セキュアトークンWG	<p>概要： 本ガイドでは、医療サービスを行う施設・設備等のノードを識別・認証するためのクレデンシャルを格納するセキュアトークンに関して、セキュアトークンを利用する際に要求される運用上の要求事項を明らかにしている。 厚労省の安全管理ガイドラインが第6版に改定されたため、参照部分等を6版に合わせて改定するとともに、ユースケースの見直しを行う。</p> <p>目的： ノード認証に用いられるセキュアトークンに必要とされる機能、相互運用で必要となる仕様を明らかにするとともに、運用上で要求される事項をまとめることによって、医療機関等の施設認証の基盤が円滑に導入・運営されることを目的とする。</p>
23-103	JAHISセキュアトークン実装ガイド・機器認証編 Ver.1.1	2024年 1月	医療システム部会 セキュリティ委員会 セキュアトークンWG	<p>概要： 医療サービスを行う医療機関等に設置された医療情報システムを構成する物理的個体識別可能なエンティティである医療機器等をWi-Fiによって施設内ネットワークに接続する目的で識別・認証するためのクレデンシャルを格納するセキュアトークンに関して、利用のユースケース、相互運用性確保の仕様、要求事項等を明らかにし、機器管理を行う実例を示す。 参照している厚労省の安全管理ガイドラインが第6.0版に改定されたため、該当部分等を6版に合わせて改定する。また、技術の進展に合わせて記載を追加する。</p> <p>目的： Wi-Fiを用いて施設内ネットワークに医療機器等を接続する場合に、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版」の要件を満たすための方法や例を示すとともに、そこで利用されるセキュアトークンに関して、ユースケース、セキュアトークンの要件、運用上の要件、相互運用の要件を明らかにすることで、医療機関等が安全かつ円滑にネットワーク基盤が導入・運営されることを目的とする。</p>
23-102	JAHIS ePath実装ガイド Ver.1.0	2023年 10月	医療システム部会 電子カルテ委員会	<p>概要： 日本医療情報学会（JAMI）標準（JAMISDP04）として公開された「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」（Ver.1.0.1）に対応したePathの実装を進める際の参考となる実装ガイド。</p> <p>目的： 電子カルテシステムベンダーが「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」（Ver.1.0.1）に準拠したパスシステムの開発を進める上で、仕様書を齟齬なく理解するための補助的な役割を担うこと。それによりePathの普及が進み電子カルテシステムベンダーの間での相互運用性のある電子クリニカルパスシステムの構築、標準化されたパスのデータの蓄積と解析によるクリニカルパスの最適化、更には医療安全の向上と医療の効率化に寄与すること。</p>
22-103	JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド(病理編) Ver.1.0	2022年 9月	医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会	<p>概要： 医療情報システムとしてリスクの考慮が必要な業務について、その機能面、運用面での要点を提示するため「患者安全ガイドライン〈個別編〉」（技術文書）を策定することとなり、注射編、内服外用編、輸血編が作成された。同様にリスクの考慮が必要な病理業務についても患者安全ガイドライン〈個別編〉を作成した。</p> <p>目的： 業界として自主的に病理検査の患者安全に寄与するガイドを作成し、病理検査の患者安全に寄与する。また、JAHISのプレゼンス向上に寄与する。</p>
21-102	JAHIS地域医療連携の評価指標に関するガイド Ver.1.0	2022年 2月	保健福祉システム部会 地域医療システム委員会	<p>概要： 地域医療連携ネットワークの活動状況を他の地域医療連携ネットワークと比較可能な指標の内容と算出方法を示すガイド。</p> <p>目的： 令和元年10月28日に会計検査院からの指摘を受けて、厚生労働省からも「地域医療情報連携ネットワークの現状について」が出ており、地域医療連携ネットワークの活動状況を各都道府県に報告するようになってきている。しかしながら各ベンダーのシステムで提供できる指標が異なる、また提示が求められるアクセス数などはシステムの構造によって実態とはかけ離れた数字がでることもあるため、ベンダーの垣根を超えて地域医療連携ネットワーク間で比較可能な指標の算出方法の提示を行い、標準化を図る。</p>

番号	名称	制定年月	担当委員会	概要／目的
20-104	JAHIS電子処方箋実装ガイドVer.1.2	2021年 2月	医療システム部会 相互運用性委員会 電子カルテ委員会 セキュリティ委員会 医事コンピュータ部会 医科システム委員会 歯科システム委員会 調剤システム委員会 保健福祉システム部会 地域医療システム委員会	<p>概要： 厚生労働省の電子処方箋運用ガイドラインが、2020年4月末に改定(第2版)されたことを踏まえ、その内容を実装ガイドに反映した。</p> <p>【重要な注意事項】 本実装ガイドは、現在全国で普及が進められている電子処方箋の仕組みができる前に、「電子処方箋の運用ガイドライン第2版」を基に作成されたものであり、現時点では有効ではありません。</p> <p>目的： 電子処方箋の実現に向けて、関係団体と協力して現存する課題の解決を図り、その円滑な普及推進に貢献する。</p>
20-102	JAHIS医療情報システム患者安全に関するリスクマネジメントガイド<解説編>Ver.2.0	2020年 7月	標準化推進部会 安全性・品質企画委員会	<p>概要： 「JAHIS医療情報システムの患者安全に関するリスクマネジメントガイドライン<解説編>」は2010年9月に発行され、その後、本共通編に対応した幾つかの個別編がリリースされた。引用している国際標準規格、国内標準規格の中にはすでに改定されているものがあるため、これら引用規格の改定版に対応した。</p> <p>目的： 医療機器及び医療機器ソフトウェアの規制に関する国際標準規格（一部はすでにJIS規格化済）と医療機器ソフトウェアを含むヘルスソフトウェアの製品安全規格の概要を解説し、医療情報システムの開発等に従事している方々に患者安全確保のための管理手法の概要を理解していただく。</p>
20-101	JAHIS臨床検査データ交換規約を用いた外注検査連携のための実装ガイドVer.1.0	2020年 5月	医療システム部会 検査システム委員会	<p>概要： システム間の相互運用性の向上に寄与するため、「JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.4.0C」を基にして、医療機関と衛生検査所（検査センター）間の情報に関わる項目の抽出と、具体的なユースケースを示し、電文の具体例を交えた詳細な説明を行うことで、外注検査に対し広く利用を促進する。</p> <p>目的： 医療機関と衛生検査所の医療情報システム間において授受される情報及び付随する材料・物品の取り扱いや運用に関する課題解決に向け検討し、システム間の相互運用性の向上に寄与する。</p>